

殿村遺跡の発掘

第5次発掘調査・平成25年12月・松本市教育委員会

1 殿村遺跡とは？

平成20年に学校建設にともなって発掘が行われ、室町時代（15世紀）から戦国時代（16世紀）にわたる、大規模な造成の跡が見つかりました。

盛土の厚さが最大2mにも達する造成跡からは、石積み（石垣）、建物の礎石や堀の基礎、高級な陶磁器や茶道具、下駄や漆器などの木製品が多数見つかりました。

これらの成果は、庶民が暮らした村ではなく、多数の労働力を結集できた権力者や、特定の階層の人物が活動をした、重要な施設があったことを示しています。

いまのところ、遺構や遺物の様子からみて、宗教的な施設、おそらくお寺の跡である可能性が高いと考えられますが、まだはっきりとは解明できていません。

一方、「殿村」の地には、中世に会田盆地を治めた会田氏の館があったと伝えられており、遺跡と会田氏の関係も注目されます。

2 遺跡の現状保存とは？現在行っている発掘の目的は？

平成20年の発掘は、学校の建設でやむを得ず遺跡が破壊される部分を事前に発掘し、写真や図面による記録を残そうとするものでした。（「記録保存」といいます。）

相次ぐ重要な発見により、平成21年に四賀地区の皆さんからの要望を受け、学校建設予定地が変更されました。これにより、見つかった遺構は将来にわたって開発などの破壊を受けることなく、そのまま保存されることになりました。（「現状保存」といいます。）

3 今回の発掘の目的は？

最初の発掘では、遺跡がいつ、誰によって、何のために造成が行われたのか？全体構造はどうなっていたのか？などの点は十分明らかにできませんでした。

そこで私たちは、これらの点を明らかにして、将来的な史跡整備に生かすため、平成22年から28年まで、遺跡の広い範囲で発掘を実施することになりました。

ところで、私たちが現在行っている発掘も、遺跡の破壊行為のひとつに他なりません。したがって、私たちは、現状保存された遺跡をできるだけ壊さないよう、明確な目的のもと、慎重に発掘を進めなくてはなりません。

今回は、以下の目的のもとに、発掘地点をしぼって発掘をしています。

- (1) 最初の発掘で見つかった、石積みを伴う造成跡の東辺部の様子、特に石積みと土塁の間の空間がどのような構造をしていたかを探る（5A1トレンチ）
- (2) 旧会田小学校付近における中世の遺構・遺物の有無を探る（5B1～3トレンチ）

4 今回の発掘のおもな成果は？

- (1) 石積みと土塁の間にある幅7m・長さ30m以上の空間は、東端で南北の石積みによって閉じられていた

最初の発掘で見つかった、東西30m以上の石積み（石積A・B）と、その南側に7mの間

隔を置いて走る幅5m・高さ1.3mの土塁にはさまれた空間は、平場の上に至る通路跡と考えられていますが、途中の段階において、東側が石積（石積B2・B3）とその背後の盛土で閉じられていることがわかりました。（5A1トレンチ）

ここが閉じられることによって、池のように水が溜まる施設になった可能性があり、底面には水中で堆積した泥・砂や、水のある環境でしか残らない木製品や自然木が大量に残存していました。

(2) 旧会田小学校校舎・体育起案付近の様子が見えてきた

体育館東側の5B1トレンチでは、深さ1.5mから中世の土鍋の破片や、その時期の造成跡や柱穴が見つかりました。わずかな範囲の調査にも関わらず遺構・遺物が出土し、この付近にも中世の人びとの活動が及んでいたことが判明しました。

校舎南側の5B3トレンチでは、深さ1.5mから建物の礎石や石組の溝が見つかりました。周辺からは江戸時代から明治時代の陶磁器や瓦、石墨・石板が出土し、会田小学校の前身である思誠館や旧補陀寺に関わる遺構と推定されます。しかし、ここからは中世に遡る遺構・遺物は得られませんでした。また、礎石周辺の地面を掘り下げたところ、縄文時代の土器・石器も出土し、この地における人びとの生活が数千年前までさかのぼることがわかりました。

5 その他に行っている調査は？

私たちは、殿村遺跡をとりまく虚空蔵山麓の歴史的景観を明らかにするため、遺跡の発掘も含めた総合的な調査を行っています。

今年度は、殿村遺跡の発掘のほか、地元の皆さんが所蔵されている古文書や絵図の調査、虚空蔵山城跡の発掘と測量など、多岐にわたる調査を実施しています。

6 第5次発掘調査データ

(1) 調査期間・調査面積

9月24日～12月13日（予定） 118㎡

(2) 5A1トレンチ（46㎡）

発見遺構 造成跡、土塁、石積み、石列、溝状遺構、柱穴など（いずれも中世）
出土遺物 土器（皿・鍋）、陶器（古瀬戸天目茶碗）、中国産磁器（青磁）、硯、木製品（漆器、曲物の底板、斎串（いぐし）状木製品ほか）など（いずれも中世）

(3) 5B1トレンチ（31㎡）

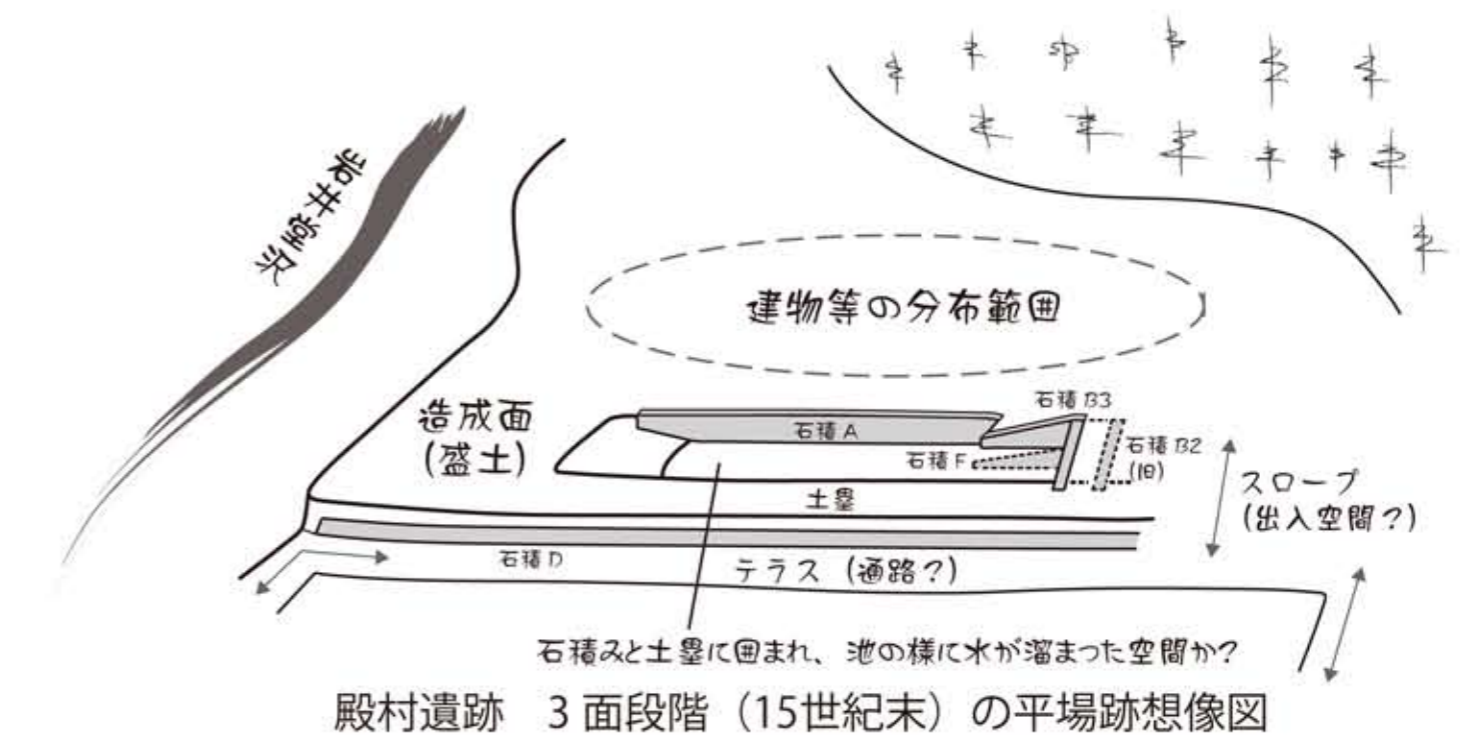
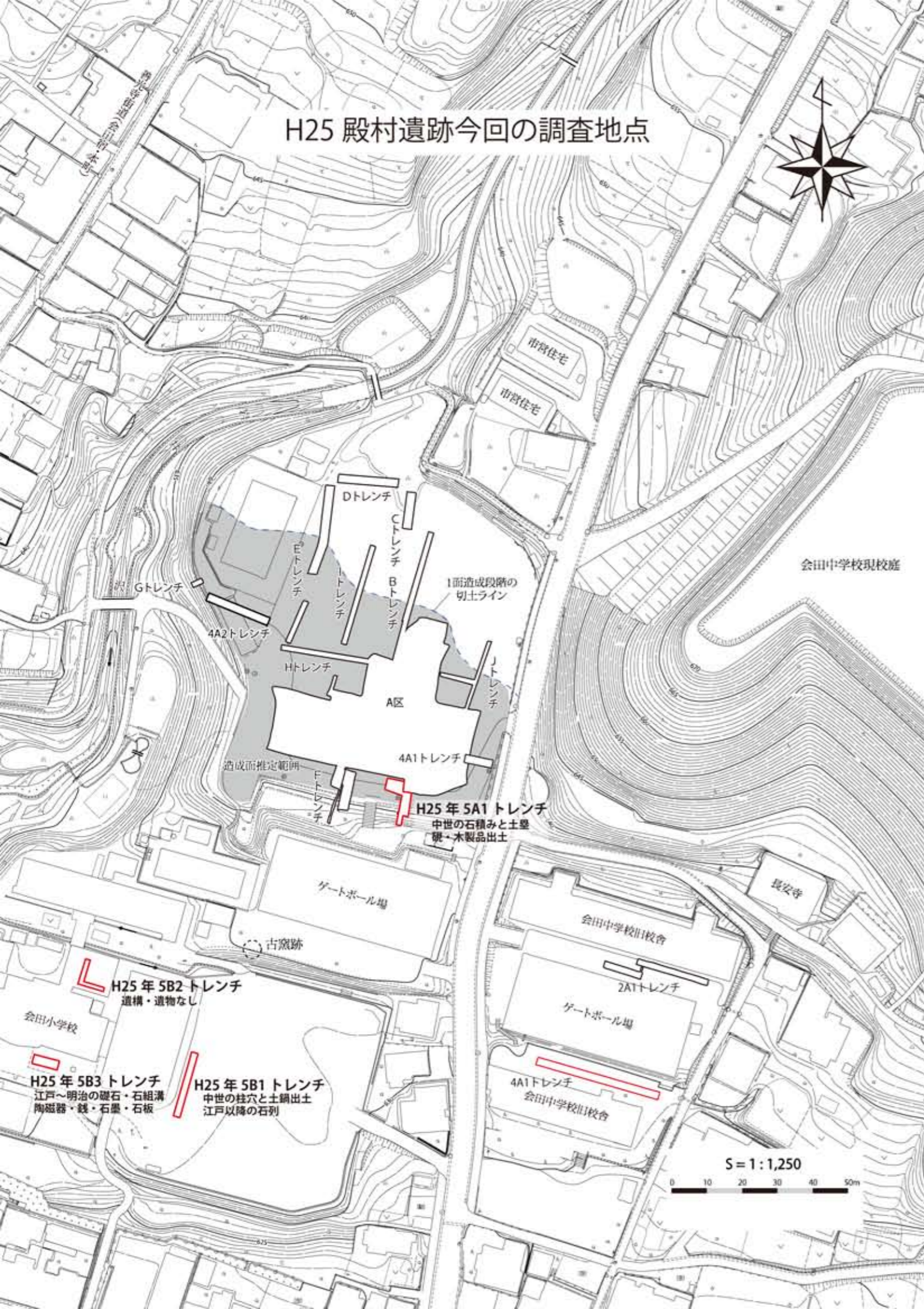
発見遺構 造成跡・礎石・柱穴（中世）ほか、石列（江戸以降）
出土遺物 土器（鍋）

(4) 5B2トレンチ（12㎡）

発見遺構 なし
出土遺物 なし

(5) 5B3トレンチ（29㎡）

発見遺構 礎石、石組溝（いずれも江戸～明治か）など
出土遺物 陶磁器・瓦（江戸～明治）、銭（文久永宝）、石墨・石板（明治）、縄文土器・石器（矢じり）など



H20年に発見した石積A



殿村遺跡調査全体図
(15世紀=3・4面の段階)



H22年に調査した土塁の状況



0 10m

- 石積前空間堆積土中層の検出遺構
 - 5面(旧地表・地山面)検出遺構
- 平成24年発掘(4A1トレンチ)
堆積土から寄生虫卵検出
便所遺構の可能性あり